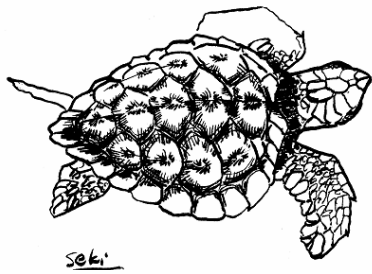


# わいるとらいぶ



No. 1

特定非営利活動法人  
宮崎野生動物研究会  
2005年5月1日

## 発刊に際して

日本の国土から野生動物が年々減少していくのは寂しいことです。すでに、ニホンオオカミは絶滅してしまいました。最近では、クマが里山におりてきたり、サルが農作物を荒らしたり、イノシシが町の中を走り回るなど、今までは考えられなかった現象が、頻繁に報道されます。外来生物が心ない人々により放され、元来生息していた日本固有の動物たちの絶滅が懸念されるような事態もおきています。これらはみな、人による環境破壊であり、自然を知らないことから起こる問題です。宮崎県は昔から自然豊かなところで、県土の80%が森林に覆われていますが、決して野生動物の楽園とはいえなくなりつつあります。私たちは、1973年に宮崎野生動物研究会を結成し、イノシシ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、ニホンザル、アカウミガメなど多くの動物の調査や保護研究を続けてきました。昨年10月にNPO法人に認可されたのを機に、本機関誌発刊の運びとなりました。今後、より多くの人たちに宮崎の自然と宮崎の野生動物がおかれていく環境をもっと知っていただけるよう活動をしていきたいと思っています。宮崎の自然が、豊かなまま次の世代にと引き継がれていくことを願ってやみません。

特定非営利活動法人 宮崎野生動物研究会  
竹下 完



## ニホンザル *Macaca fuscata*

鹿児島県屋久島から青森県下北半島に至る九州、四国、本州とその他離島に分布する。中でも下北半島は世界のサルの生息地の最北限として有名である。頭胴長は50~70cm、尾長5.5~7cm、短い毛は一般に暗褐色で長い。大人のオスは15~16kgぐらい、顔と尻が赤く両頬に頬袋があるのが特徴。普通20~80頭ぐらいの群れをつくって山地の森林に棲み、半樹上、半地上の生活をし、昼間活動する。雑食性で果実、木の芽、樹皮、昆虫などを食べる。県内広くに分布するが、最近では森林環境が悪くなり農作物を荒らし各地で被害も多い。串間市の幸島の猿はサル学発祥の地として有名で、「いも洗い」「味付け」などの知的行動は世界的にも注目されている。

## 宮崎野生動物研究会の沿革

本研究会は、1973年に野生動物の調査をおこなう任意団体として発足しました。東に長い海岸線、西に深い山を擁する宮崎県には、さまざまな野生動物が生息しています。その保護を訴えるには、まずは現状を把握するためのデータが必要です。動物の生態は、10年くらいの長期にわたる継続したデータがないと詳しいことがわかりません。本研究会では、発足当初から現在にいたるまで、息の長い調査活動をおこなってきました。

30年前の宮崎には、現在の何倍もの広さの砂浜が広がっていました。そこに毎年夏になると上陸してくる大きなアカウミガメは、貴重な生物資源であるということから、1975年に宮崎市が「アカウミガメ及びその産卵地」を市の天然記念物に指定しました。翌1976年からは、市からの委託を受けて本研究会が本格的にアカウミガメ調査を開始しました。全国的に見ても、アカウミガメの調査としては最も早くから調査を始めた団体に属し、それが現在まで継続しているのは、本研究会が日本で唯一といってもいいでしょう。

ウミガメの調査では、上陸する頭数を数えることから始まり、産卵数の把握、卵の孵化条件の実験、卵の栄養分の分析、甲羅に番号標識を取り付ける追跡調査も行なわれました。追跡調査では、遠く東シナ海で漁をする中国の漁民から標識タグを回収したとの連絡もあり、アカウミガメが産卵期以外は東シナ海に居るらしいこともわかりました。1980年には、やはり「ア



巨大なノギスで甲羅の長さを測る

カウミガメ及びその生息地」が宮崎県の天然記念物にも指定されています。ここ10年ほどは砂浜の浸食が目立つようになり、やせ細った砂浜に産まれていった卵は、大潮や台風時に海水につかって死ぬおそれがあるため、高台へ移植する作業も必要に応じて行なっています。

宮崎県には長い距離の砂浜だけでなく、豊かな森林があり、そこには多様な動物が生息しています。動物の生態調査を専門とするメンバーが集まった当研究会は、ニホンザル、ニホンカモシカ、イノシシなど、様々な調査を委託され、成果をあげてきました。とくに日本の固有種であるニホンカモシカは、宮崎県の綾町が分布の南限であることがわかりました。数年おきに個体数調査が行なわれ、当研究会のメンバーがヤマヒルやダニの襲撃にもめげず森を歩き回って生息データを集めてきました。



カモシカの糞を探してこれから斜面を登る

調査活動のかたわら、宮崎には豊かな自然があることを多数の人に知ってもらうために、要望に応じて講演会などもおこなってきました。少しずつ本研究会の活動が知られるようになり、宮崎日日新聞社賞〈自然保護活動部門〉(1982年)、全国青年会議所トイップ賞〈環境庁賞〉(1992年)、文部科学大臣賞(2000年)、宮崎県文化賞(2001年)、日本海岸協会賞(2004年)、コココーラ環境教育賞(2004年)、宮崎市教育文化功労賞などを受賞しました。

昨年10月には、NPO法人として認証され、今後も研究調査に限らず、環境保護や社会教育の分野でも活動していきたいと考えています。

(林裕美子)



## アカウミガメの生態 <産卵行動>

アカウミガメ(以下カメ)が産卵をする時刻は、完全に日が暮れた午後9時頃から明け方までで、大まかに「上陸→穴掘り→産卵→埋め戻し→帰海」に分けられます。

波打ち際に上陸したカメは、産卵に適した場所を探し、内陸部へと移動します。海中では自由に泳ぐカメも、陸上でその巨体を移動させることは、大変困難なようです。また、その巨体を移動させた跡には、ブルドーザーのキャタピラ跡のような這い跡が残ります。

上陸したカメが、産卵に適した場所をすんなりと見つけることはあまりありません。海岸にはゴミなどの漂着物があったり、砂の流出のために崖ができてしまい、移動できないことがあるからです。そんな時は、産卵をせずに海に帰ってしまっただけが残ります。その他、上陸を阻む要因には海岸を照らす建物や車の光、海岸での花火などもあります。

ようやく産卵に適した場所にたどり着いたカメは、前足を使い「ボディーピット」と呼ばれる自分の体が収まる浅い穴を掘ります。その後、後足を交互に使い直径20cm・深さ50cm、穴の底がやや広い、とっくり形の穴を掘り始めます。カメの後足はヒレのような形をしており、外側に指に当たる部分は見られません。後足は堅そうで、これで上手く穴が掘れるのかと思いますが、実に器用に砂を掘り、その砂を穴の外に運び出します。

穴が完成するといよいよ産卵です。10秒に1回くらいの割合で、1度に2～3個、合計100個位産卵します。卵はピンポン球そっくりですが、殻は柔らかく、人間が手荒く扱ったら、簡単に破けてしまいます。カメは産卵に集中し、その間は動くことはありませんし、いったん産卵が始まると、途中でやめることはありません。産卵は静寂の中で行われ、時よりカメが「フー」と大きく息を吐く音が響きます。

卵を産み終わると、埋め戻しが始まります。埋め戻しは左右の後足を交互に使い、周囲の砂を集め卵の上にかき、その砂を後足で固めます。次に産卵した場所のカモフラージュを始めます。まるで砂の上を泳ぐように前足を動かし、産卵した形



跡を消していきます。前足を大変勢いよく動かすので、自分の甲羅にも大量の砂を跳ね上げ、甲羅は砂だらけになります。そして徐々に移動し、卵を産んだ穴が分からなくなると、いよいよ海に帰り始めます。

産卵に疲れたのでしょうか、時には動くことを止め、しばらくしてまた前進を始めることもあります。海に帰るカメは、視覚によって海の方角を確認しているそうです。そのため、この時に人工的な光の影響で海の方角を誤認することもあります。ようやく波打ち際にたどり着き、打ち寄せる波を体にかぶるようになります。ここまで来れば、簡単に波に乗れそうですが、巨体のためなかなか波に乗れません。波をかぶりながら砂の上を這い、体全体に浮力を得られるようになってから泳ぎ始め、海中に消えていきます。

上陸から産卵まで、速い時でも1時間以上、長い時には3時間近くかかり、ようやく産卵行動は終わります。  
(末吉豊文)



アカウミガメの足跡。手前は産卵跡

参考資料

豊橋市作成パンフレット 「アカウミガメが来る表浜の自然を守ろう！」

日本ウミガメ協議会機関誌 Marine Turtler 第6号



## ニホンカモシカの調査

カモシカは昭和30年に国の特別天然記念物に指定されました。北は青森県下北半島、南は宮崎県綾町まで北海道と沖縄を除くほぼ全国に生息するウシ科ヤギ亜科の動物ですが、比較的捕獲しやすいこと、毛皮の価値が高いこと、さらに良質の肉がとれることなどのため乱獲がたり、一時は幻の動物と言われるまで激減しました。しかし、特別天然記念物に指定されたため、徐々にその数を増やし、現在は増えすぎて食害を起こすので困るとまで言われるようになりました。

宮崎県の主な生息地は大崩・祖母・傾山系、椎葉、西米良、尾鈴山系、掃部岳山系、大森山系です。日本におけるこの種の分布南限は、宮崎県綾南川照葉大吊橋周辺となっています。これまで宮崎県では昭和62年頃から、宮崎県教育委員会による大掛かりな生息調査が三回にわたって行われてきました。カモシカの分布域は徐々に拡大しているようですが、生息数は宮崎県全域で数百頭という程度でしょう。しかし、密猟が後を絶ちません。

カモシカは「シカ」の仲間ではなく、「ウシ」の仲間です。したがって、ウシの角によく似た1本角がオスにもメスにもあります。角の根元にある皺の数で年齢が分かるといわれます。採食法は「ブラウザー」と呼ばれる典型的なつまみ食いタイプで、木本や草本のおいしい先端部分のみを唇で摘んで食べます。1産1仔で、一生の長さは平均10年くらいでしょう。メスは互いに重ならないナワバリを持ち、オス同士は重複の多いナワバリを作ります。仔は2歳を過ぎると親のナワバリから離れ、一人だちします。(岩本俊孝)



## 夏休みの思い出

宮崎市宮崎東小学校 5年 親衛れいか

わたしの夏休みの一番の思い出はボーイスカウトのカメの放流です。フェニックス自然動物園前の広場に集まって、まず、担当の人から話を聞きました。ウミガメのオスとメスは、土の中の温度で決まるそうです。またカメは、ウミの中のもくずにつかまってアメリカに行くそうです。えさは、もくずについている小魚で、それを食べて育つそうです。カメについての話と、台風が近づいていたので、いろいろ注意も聞きました。話を聞いた後、すなはまに移動しました。雨は降っていませんでしたが、すごく波が高かったので、カメがおしもどされないか、とても心配でした。すなはまで、カメを1びきずつもらいました。手のひらに乗せられたカメはとてもかわいかったです。赤ちゃんは海の光に集まるので、かい中でんとうでためしてみました。すると2、3びき集まったので、かい中でんとうを消してみると、また海の方に行きだしました。まだいっぱい赤ちゃんカメがいたので、2ひき手にのせて放しました。赤ちゃんガメは、手のひらの上で手足をしきりに動かしていました。すなはまに放すと、ゆっくりゆっくり海の方へあるいて行きました。たくさんのカメが海の方へ歩いていました。去年、親ウミガメの産卵を見ました。大きさは1メートルちょっとありました。すごく大きかったです。なのに、その放流したカメは10センチメートルでした。小さなカメが大きな魚に食べられないで帰ってくればいいなと思いました。でも年々すなはまがせまくなっているの、タマゴを産んでも波に流されないか心配なこともあります。だけどまずは、赤ちゃんガメがちゃんとこのはまに戻ってこられるように祈りました。元気に育って、たくさんのカメがもどってくるといいです。

11月12日：夕刻よりシンポジウム「日本海とウミガメ」が行なわれました。ここで「日本海はカメ（特にアオ）の袋小路だ」という仮説が提唱されました。ウミガメは海水温の高い夏場に対馬海流に乗って日本海に入るが、冬場までに出口（対馬海峡）を見つけられなかった個体は水温低下とともに死亡して、冬の季節風に吹き付けられて日本海沿岸地域に漂着するという面白い仮説が提唱されました。

11月13日：午前中に11題の講演があり、野生研からは竹下氏が2004年度の宮崎地域のアカウミガメ上陸産卵状況と過去約30年間の浜ごとの動向を報告しました。他にも、鹿児島島の定置網での混獲調査、屋久島のアカウミガメ孵化状況、孵化直後からのウミガメの人工飼育などについての報告がありました。午後からは津屋崎恋の浦海岸の視察とポスター発表が行われました。各地域のストランディング（死体漂着）に関する報告が多い事が印象的でしたが、これは上陸産卵個体に遭遇する機会が限られた地域が多いことを物語っているのではないのでしょうか。沖縄、鹿児島等の島嶼部を除けば、宮崎は全国最大のアカウミガメ上陸産卵地域で、我々は他の地域の人よりウミガメそのものに接する機会に恵まれていることに改めて気づかされました。夕刻より行われた日本ウミガメ協議会による「2004年度のウミガメ上陸・産卵・漂着報告」でも、1990年より減少傾向を示したアカウミガメの上陸・産卵数は、南九州地域を除き全国的に減少傾向が続いており、特に四国地域の上陸数は壊滅的までに減少し



津屋崎 恋ヶ浦海岸

ているとの報告がありました。

11月14日：最終日は午後3時まで18題の口頭発表がありました。時間の都合で午前中の6題だけを聞きました。ウミガメが泳ぐ深度、速度、方向等をデータロガーで記録し詳細に再現することで、潜水中の行動様式を知ろうとする興味深い報告が2題ありました。また、ウミガメへの砒素や金属の蓄積を測定した環境問題に繋がる報告もありました。ポスター演題や口頭演題には、DNA解析から個体群内の遺伝的多様性や産卵エリアごとの集団間の遺伝的交流を推定する報告が幾つかありました。今後我々でも同様の解析を行うか、積極的に共同研究を行うことができるとの印象を持ちました。

全体を通して、漂着死体から様々な情報が得られることがわかりました。この点については我々もしっかり情報をとるべきだと思います。また上陸個体に遭遇する機会が他地域と比較して圧倒的に多い宮崎にあっては、研究の可能性は非常に大きいと思いました。（越本知大）

## 動物こぼれ話 ① ニホンヤマネ

森の妖精と呼ばれるニホンヤマネが動物園に保護されてきました。間伐で切り倒されたスギの木の幹に巣を作り冬眠中だったらしく、巣ごと運び込まれてきました。巣は、スギの木の葉を上手に丸めて編み込み、大きさは両手で持ち上げられるくらいでした。私たちが巣を触っていると、中から寝ぼけ眼のヤマネが顔を出しました。大きな目を眠そうにパチパチしながら周りをうかがう姿は、まるで小さなぬいぐるみのようでした。しかし、スローモーだった動きも一時のことで、すぐに、目にも留まらぬ速さで動き出しました。

この日からヤマネの飼育が始まりました。いろんな餌を用意しました。

堅いものは嫌いです。ヒマワリ種やアサの実などの穀類は、からを割ってあげないと食べません。動物質の餌として与えたミルワームは食べますが、クモやゆでた鶏肉は食べませんでした。ゆで卵は黄身のほうが好きでした。巣を作っていたスギの新芽を与えるとかじっていました。ツバキなどの新芽や、いろんな花の蜜が溜まっている部分も良くかじっていました。くだものも良く食べました。一番の好物は、甘く熟れたイチゴでした。柔くて甘いものが大好きなようです。げっ歯類なのに大丈夫かと少し不安でした。（出口 智久）



## 2004年度 宮崎野生動物研究会の活動記録

- 4/17 NPO 設立準備総会を開催  
5/11 田野小学校で講演  
5/15 宮崎市市制 80 周年記念行事において教育文化功労賞を受賞  
5/20 - 8/10 ウミガメ調査  
5/25 全国海岸協会より、宮崎の海岸に上陸するウミガメの保護に貢献したことにより表彰  
6/2 ボーイスカウトをウミガメ産卵見学案内  
7/7 一ツ葉人工ビーチでアカウミガメ 2 個体が産卵したので卵を移植  
7/20 日南市教育委員会主催「ウミガメの勉強会」が桜ヶ丘小学校で行われ講演  
8/22 子ガメの孵化の見学会を開催 (参加約 100 人)  
9/16 第 11 回コカコーラ環境教育賞主催者賞受賞  
10/1 特定非営利活動法人宮崎野生動物研究会登記  
10/26 野生鳥獣生息分布調査開始  
11/24 宮崎市立南住吉小学校 4 年生に講演  
11/29 宮崎市立東大宮小学校 4 年生に講演 (ウミガメの保護にと、子供たちから 3610 円の寄付を受けました)  
12/9 宮崎市立生目西小学校 4 年生に講演  
3/1 - 3/7 ハワイで行なわれたアカウミガメ国際会議に招待され、竹下会長が参加発表

## ~~~~~ お知らせ ~~~~~

### 2005年アカウミガメ調査計画

期間：5月20日～8月10日  
場所：高鍋町 堀ノ内海岸、  
新富町 富田浜  
宮崎市 大炊田、明神、住吉、一ツ葉、松崎、運動公園、こどものくに  
アカウミガメ見学会は、賛助会員が調査に同行する形で行います。カメ見学をご希望の方は、まずは日程など電話でお問い合わせください。 林 0985-50-4650

### うみがめグッズを販売しています

当研究会では、活動費にあてるために、以下のようなグッズを販売しています。

購入希望の方は、宮崎市立フェニックス自然動物園の売店でお買い求めください。

- ウミガメのストラップ (500 円)  
ウミガメのピンバッジ (500 円)  
アカウミガメ絵葉書 4 枚一組み (400 円)



ピンバッジ

### ホームページ開設

このたび、新しく当研究会のホームページが開設されました。ぜひ、のぞいてみてください。

<http://www.m-yaseiken.org>

\*\*\*\*\*

### ☆ 会員募集 ☆

宮崎野生動物研究会では、常時会員を募集しています。

正会員 入会金 5000 円 年会費 2000 円

各種野生動物調査を実施、調査結果のまとめ、その他運営に参加

賛助会員 入会金なし 年会費 個人 1000 円 団体 一口 5000 円

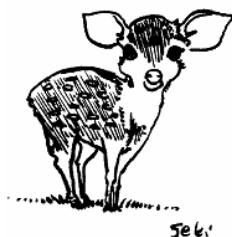
宮崎野生動物研究会通信『わいるどらいふ』を年 2 回お送りします。

また、希望者をアカウミガメ見学にご案内します

申し込み方法：官製はがきに郵便番号、住所、お名前をご記入の上、下記竹下宛にご投函ください。入会申込書と振込用紙をお送りいたします。

\*\*\*\*\*

宮崎野生動物研究会通信「わいるどらいふ」 No.1 2005年5月1日発行



特定非営利活動法人

**宮崎野生動物研究会** 代表 竹下 完

880-0825 東大宮三丁目 9-11

Tel 0985-25-7585 Fax 0985-25-7585

Email: kan-take@miyazaki-catv.ne.jp

<http://www.m-yaseiken.org>